

第10回 清和台地区学校のあり方を検討する懇話会 議事録

令和8年8月5日 午前10時～

【地域説明会資料について】

＜問＞説明させていただいた「地域説明会で出た意見や質問」に関してのご意見やご質問、ご覧いただいた動画（愛知県刈谷市広報）へのご意見ご感想などがあれば、お聞かせいただければと思います。

- ・清和台小の説明会で、未就学児の保護者が、意見交換会がC案の決定につながる場であることを知らなかったと言っていた。当日参加した未就学児の保護者は何人だったのか。その方は、当日参加できない人向けのアンケートも知らなかったと言っていた。

《教育委員会》

⇒意見交換会の参加人数は11人で、アンケートは50件ほど集まった。チラシにQRコードを掲載しており、参加できない人はそこから意見を送ることができるようになっていた。質問した保護者に直接話を伺うと、意見交換会に参加できないためQRコードも見なかったことから、アンケートに気づけなかったということだった。

- ・就学前の世帯にチラシを送ってアンケートが50件、参加が11人ということか。
また、次回予定している未就学児の保護者向けの意見交換会について、日程をいくつか提示することは良い案だと思うが、小さいお子さんがいる家庭では、申し込んでいても当日になって急遽参加できないという人も多いのではないかと思う。

《教育委員会》

⇒意見交換会については認識のとおり。開催時間はどうしても決めないこちら準備できないので設定しているが、次回はオンラインも用意して、なるべく保護者の方の負担が少なく参加できるように手段を増やすことを考えている。

⇒全てを完璧にすることはできないので、現実的に可能な範囲で最大限努力する。関心のある人もない人もいるため、関心のある人がいつでも情報にアクセスできるよう、ホームページに資料を掲載することを徹底したい。議会でも質問は多く、どこまで働きかけるかは難しい判断だが、可能な限り対応したい。

- ・勤務先の社員が4年ほど前、清和台幼稚園の近くに引越して来た。その後、幼稚園が廃園になり、今度は小学校が統合になるため困っていると言っていた。説明会のことを話したら、知らなかったと言っていた。本人には「川西市が良いように考えてくれていると思うよ」と伝えたが、まだ先の話だと感じているようだった。

《教育委員会》

⇒清和台地区にお住まいの方にはこれまで地域説明会のチラシを3回、未就学児の保護者には、未就学児の保護者向けの意見交換会の説明会を含めて合計5回は全戸配布でポスティングしている。また、公民館や商業施設などに資料を置くようにして、目に触れる機会を増やしたい。今の社会では情報共有をすることが難しくなっていると感じる。

- ・チラシは公民館などに置いても、あまり見ないと感じる。懇話会メンバーが「こんなのがあるよ」と声かけするのが一番ではないか。
- ・参加したい気持ちはあるが日程の都合で行けないという人にとっては、オンラインの開催はありがたいと思う。具体的な方法は思いつかないが、周知に力を入れるべきではないか。働いている人向けなら、バスなど公共交通機関の掲示を活用するのも手だと思う。チラシのデザインを、一目で目につくものに変えても良いと思う。知り合いから「どうなった？」と聞かれるので、気にかけている人は多いと思う。

《教育委員会》

⇒ほとんどの人が保育所、幼稚園、こども園に通っていると想定しているので、園所側からの配布も検討している。

⇒懇話会のメンバーで特別支援学校と小学校が併設されている学校を見学する機会をもちたい。実際に働いている方や子どもたちの様子を見ることで具体的なイメージをもてると思う。以前、千葉にある国立特別支援教育総合研究所へ視察に行った。先日問い合わせたところ、小学校と中学校と特別支援学校が同じ敷地にあるのは全国初ではないか、とのことだった。そうなれば、この統合は清和台のひとつの特色になる。

- ・動画の学校は、上肢を自由に動かせる子が多かった。川西養護学校で同じように交流できるかという、難しいお子さんもいるように感じた。運動場とは別に、ふれあい広場などがあると安全に触れ合えそうだと思う。図書室や音楽室など共用スペースがあれば、自然と交流の機会は増えそう。動画の施設は新しくバリアフリーで広々としており、きれいで魅力的だった。イベントでの交流ではゲスト扱いになりがちなので、常に一緒に過ごせるような交流ができれば嬉しい。

《教育委員会》

⇒交流スペースの作り方には色々な考え方がある。まずコンセプトを明確にしていきたいと思う。個人的にはイベントで交流するのも良いが、日常的に交流できることが一番良いことだと思う。日常があって初めて意味のあるイベント交流になる。日常を基盤にしたイベントになるようにしたい。

◆清和台中における「学校のあり方」についての意見交換について

- ・学校運営協議会の中で、生徒会役員と教職員と委員でディスカッションの場をもっており、今回のテーマは「学校のあり方」ということで、45分間話し合った。課題が多く出てきたが、「校長先生は何人?」「先生の数はどうなる?」「給食は?」など、素直な疑問や具体的な意見が多く出されていた。また「グラウンドの使い分け」も気にしていて、「小中で授業時間が異なるためチャイムはどうなるか」「中学校の定期テスト中に小学生が遊ぶ声が聞こえるのはどうか」「中学校の校則と小学校のルールの違い」なども気にしていた。「中1ギャップの解消になることが良い」「きょうだいがいなくても、学校では兄・姉のような役割をもてる」「中学生の悪いところを小学生が真似するのでは」「小学生が中学生の姿を見て憧れるのでは」等、異年齢が一緒にいることのメリット・デメリットも挙がっていた。最後に生徒が各グループの内容をまとめ、課題への解決策として、「中学生が小学生に教えることで先輩としての自覚を持つことができる」「委員会活動を小中一緒に行える」などの意見を発表していた。

<問>説明させていただいた清和台地区の今後の方向性に関してのご意見やご質問などがあれば、お聞かせいただければと思います。

- ・学童の子を対象としたバスは出すのか。長期休業中もその子たちのためにバスを運行するのか。今後学童に入る子どもはどんどん増えると思う。保護者は迎えに行くことが難しいので、決まった場所に送ってもらえるとありがたい。

《教育委員会》

⇒学童を新しい学校に設ける方法もあるし、各学校の体育館は残るため、それぞれの小学校で運営する方法もある。後者の場合、学校終了後に各小学校までバスで移動して学童を利用し、そこからは各自徒歩で帰るということになる。一方、他市の事例では、新しい学校で学童を運営し、終了時間に合わせてバスを運行しているところもある。現状では、どの方法にするかはまだ決まっていない。

⇒学童をどの場所で、どのような形態で行うかは、今後検討が必要な事項である。いずれの方法をと

るにせよスクールバスの活用は必要なので、その点も踏まえて方針を決定していく。実際、猪名川町では中学校の地域クラブ終了時刻に合わせてバスを運行させているため、契約の方法次第だと思う。

- ・バスは一台につき何台乗れるのか。早い時間に行きたい子や、普段はバスを利用しないが天候が悪い日だけ乗車するなどへの対応は可能なのか。

《教育委員会》

⇒マイクロバスだと1台27人程度乗車可能。これからの検討なので、具体的に決まっているものはない。

⇒運行状況の可視化や、天候や怪我による乗車・欠席連絡ができるアプリもある。また、他市では、早く学校に着く子どもたちに対し、始業前に読書や自習の時間を設けるなど、教育課程の中で柔軟な対応も行われている。

- ・幼稚園バスのように、乗車している子どもが誰かも確認できるようになるのか。

《教育委員会》

⇒点呼確認は必要。保護者にもわかるようにするため、連絡手段を検討する。川西養護学校が既にバスを運行していて、そのようなアプリの検討を始めている。

<問>本日説明させていただいた全体を通してご意見やご質問などがあれば、お聞かせいただければと思います。

- ・未就学児の意見交換会は、いつ頃を予定しているか。

《教育委員会》

⇒9月12日の土曜日と、平日は9月14日～18日の5日間を予定している。8月中旬頃に未就学児の世帯へチラシを送り、希望時間などを募る予定。締め切りは9月6日としている。

- ・郵便で宛名を付けてポストに投函するのか。チラシのポスティングだとしてもらえないと思う。宛名があることで自分ごととして捉え、読む確率が上がるのではないか。

《教育委員会》

⇒中身はチラシだが、郵便として封筒に入れ、宛名を付けて送る。

【今後の進め方について】

《教育委員会》

⇒次回第11回の懇話会は別途連絡する。日程調整に協力をお願いします。